

第 10 期 第 4 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日 時】平成 29 年(2017 年)1 月 24 日(火)14 時から 15 時 30 分まで

【場 所】豊中市伊丹市クリーンランド7 階大会議室

【出席委員】渡辺会長 浅利副会長 花嶋委員 仲尾委員 中西委員 山田委員 新開委員
中澤委員 長谷川委員 神保委員 岡田委員 米田委員 澤村委員 大西委員
(15 名中 14 名出席：有効に成立)

【傍聴者】0 名

【事務局】脇山、井藤、勝井、中村、吉島、重本、溝口、吉村、勝羽、澤田、
松本、大和、大道、村林、柴田、石村、豊田、射場、上野、森

【オブザーバー】鈴木（豊中市伊丹市クリーンランド事務局長）

【コンサルタント】齋藤、小泉

1. 開会宣言（事務局）

2. 豊中市伊丹市クリーンランド事務局長挨拶（事務局長）

3. 配付資料確認（事務局）

第 10 期 第 4 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事次第

参考資料 第 3 回廃棄物減量等推進審議会の振り返り

資料 1 第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画骨子案～ごみ減量の方向性～

資料 2 第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画骨子案の構成

資料 3 第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画骨子(案)

資料 4 平成 29 年度の廃棄物減量等推進審議会の進め方について(案)

○事務局

本日の会議は、公開となっておりますが、傍聴希望者は 0 名です。委員定数 15 名のうち、14 名が出席されていますので、審議会規定第 6 条により本日の会議は有効に成立しています。議事録署名委員ですが、花嶋委員と、中尾委員にお願いいたします。

○会長

それでは、審議に入ります。では、まず前回の振り返り、続きまして本日の案件 1「第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画の骨子案について」事務局から説明をお願いします。

4. 「第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画の骨子案について」

○事務局

(参考資料及び資料 1 から 3 に沿って説明)

○会長

これまでは、「減量目標の数字をどのように表現するか」など、具体的なことについてみなさまにお諮りしてきた経緯があります。計画の全体像としては、スローガンといいますか、目標が必要になり、それはそれほど大きく変わるものではないということです。資料 1、食品ごみと紙ごみについては、これまで話してきたことですが、資料 2 の左下にある基本理念・基本方針等で全体像について記されています。具体的な施策については、来年度に減量計画を進めるなかで決めていくことになります。焦点は絞っておりませんので、気がつかれたところからご発言下さるようお願いいたします。

○委員

食品ごみ減量について気が付いたことがあります。豊中市ではディスプレイの設置を義務付けることを考えたことはありますか。設置すれば生ごみが減ると思います。それと市の機密処理文書は専用のリサイクル業者に処理を頼んでいるのでしょうか。

○事務局

1 点目のディスプレイの件ですが、市としては上下水道局との関係もあるので、今現状では考えていません。集合住宅だと汚泥槽がありますが、そこに汚泥が溜まったりする問題もあります。

機密処理文書については、市から出される機密処理文書に関しては、年に数回専門の製紙工場で一斉に処理しています。

○副会長

資料 2、一番左の下から 2 行目に、「廃棄物の減量と 3R」という記述がありますが、3Rには発生抑制が含まれると思うのですが、減量には特別な思いがあるのか、教えていただきたい。

○事務局

3Rの中でも、2R（発生抑制、再使用）優先したいという思いがあります。重複しているというご指摘は、その通りだと思います。

○副会長

どういう方向でいくか、クリアにわかるような内容にされた方がいいのではないかと思います。

○会長

循環型社会という言葉だけで確かに含められるのですが、循環型社会のためにエネルギーを消費することに対する批判は以前からありました。そういうことを含めた、環境に優しい循環型社会の構築ということです。あまりにも古い言葉を並べているので少し修正の余地はあるかも知れませんが、大幅に路線を変えるということは言っていないと思います。3Rの言葉のなかに、リデュースがあるので減量は含まれるのですが、直近の課題として焼却施設の処理能力の問題もあります。焼却量をなるべく減らすということをここに書きたいという思いだと思います。

○委員

資料 1 の上から 2 行目に、「供用開始」という文言がありますが、供用とは行政の人だけにわかる言葉だと思います。市民が分かりやすい内容としては、「供用開始」という言葉はふさわしくないと考えます。専門用語以外で他の言葉に替えられるものがあれば、替えていただきたい。また、同じく資料 1 の上から 5 行目、「市民・事業者・行政」という記述があります。市民、事業者、行政が協働して取り組むことは必要ですが「・」を使うと、この 3 者が同格であるということになると思います。骨子案でもそういう標記になっているのを見て、疑問に思いました。私の考え方が間違っていたら教えて下さい。それから、ごみ量が増加したのは人口増加が原因というご説明があり、そのことは理解していますが、何年か前にごみの収集のシステムを変えました。容器包装リサイクル法に従って、プラスチックは可燃ごみの方に、プラ製容器は容器包装の方に排出するとなりました。そのことと、可燃ごみが増えたことは関係あるのか教えていただきたい。あともう一点、資料 2、「現状と課題」の二つ目の○「少子化・高齢化の急激な進行...」の箇所。少子・高齢化と施策を実施する必要性と、どのような関係があるのですか。

○事務局

「供用」という言葉につきましては、表現を事務局で検討させていただきたいと思います。「・」も用語の使い方を確認したいと思いますが、現在、総合計画を改訂しており、その中で「市民・事業者・行政」という表現をしていますので、それに合わせて記載したいということによろしいでしょうか。

○委員

資料 1 の上から 2 行目、「供用開始時の計画値を上回る」というのは、どういう意味でしょうか。人口が増えたからですか。

○事務局

人口は増えていきますので、ごみも総量としては増えています。ただ、個人レベルでは着実に減っており、目標設定でも 1 人 1 日当たり量を減らしていく方向で考えています。それから先程のごみ焼却量の件。平成 24 年度にプラ製容器包装分別を実施し、製品プラスチックは可燃ごみに入れたので、その分可燃ごみが増えております。ごみの総量としては、平成 24 年から平成 25 年は減っております。その後、計画改定にあたって、組成分析調査を実施し、食品ごみ、紙ごみは、大きく減らせる余地があるということで、ここに提案させていただきました。続いて、資料 2、「現状と課題」の 2 つ目の○、少子・高齢化の箇所の意味についてですが、地域コミュニティでは、自治会が急激に減っています。第 3 次計画でも少子高齢化を想定しながら計画立案しました。豊中市は幸いにも多くの市民の方々に移り住んでいただいております。将来的な少子高齢化の流れが緩くなっており、ここ 10 年、人口は横ばいか若干増えている状態です。将来的には少子高齢化は続いていくということを書かせていただいております。

○会長

府の動きを注視しているということです。少子高齢化はご説明のとおりだと思います。もしもこれに深い意味がないなら削除してしまっても、文章としては成立します。

○事務局

国や上位計画の動きがあり、一般廃棄物処理基本計画も国から指針が出ていますので、そういう動きを注視していくという意味合いです。

○会長

少子高齢化と国が関連するように読めるので、敏感になっていると思います。

○事務局

文章の構成上、そういう意味にも解釈できるかと思いますが、そういう意味ではありません。今のご意見に基づいて表現を手直しさせていただきます。

○会長

国の方針で影響されることは当然あるかと思いますが、少子高齢化については国から方針が出るということは考えにくいと思います。

○委員

資料 2 の一番右下にあるように、今回の豊中市一般廃棄物処理基本計画は、環境基本計画が現在改訂中なので、そちらにも反映されます。クリーンランドに搬入するごみ量が多くて危機的な状況なので、減らそうということをもう少し市民の方々に、ストレートに伝わるように書けばいいと思います。さきほど「供用」という言葉に対するご指摘もありましたが、正確に書こうとするあまり、表現がわかりにくくなっていると思います。さらに、資料 3 にある骨子案の中になると、もっとわかりにくくなってしまいます。ここは、クリーンランドがいっぱいなので減らしましょうということを訴えるように分かりやすくしてはどうかと思います。

○会長

数年前に、供用開始前のごみはこう減らすというグラフありましたよね。それを載せて、実際にはそれほど減っていないというグラフが 1 枚あると、もっともわかりやすいと思います。文章で書いても、あまりピンとこないです。計画の文章としてふさわしいかどうかは、他の文章と整合性を取る必要があります。

○委員

人口が増えたので、ごみ量が増えています。それでクリーンランドの処理量がぎりぎりのところになっています。だからごみを減らさなければなりません。ということが市民のみなさんにうまく伝わるような文章が作れたらいいと思います。単にごみの量が増えたというだけでは、みんながさぼっているからごみの量が増えたという感じになってしまいます。

○委員

可燃なのか、容器包装リサイクルなのか、分別できない台所のごみが沢山あります。食品を取り巻く状況は 20 年前と全然違います。1/3 くらいしか手作りがないような状況です。土台がゆるんでいると感じていますが、みなさんはどう思っておられますか。

○会長

貴重なご意見ありがとうございます。今のご意見は、分別する時、何を資源としてピックアップするかということをおっしゃっていただきました。容器包装プラスチックについては、なんとなくみんな納得できるところまでできていますが、それ以外のところは、同じ調子で分別しろと言われても、何をどうすればいいのかわからないということだと思います。そこは、具体的な説明というよりも、例えば、地元のテレビでゴミについてのディスカッションを放映するとか工夫してはどうでしょうか。台所ごみの話がでましたが、私は紙ごみの方がやりやすいので、そこから手をつければ良いと思っています。

○委員

例えば、あめを食べると出る包み紙は容器包装ですか。他市ではリサイクルの表示のある分だけ容器包装となっています。ちっちゃい表示を虫眼鏡で拡大して見たりしていますが、結局燃えるゴミで排出しています。その包み紙を持って来ようかと思いましたが、審議会だから次元が違うかと思いました。お弁当の空き容器は、容器包装ですか。

○事務局

プラ製容器包装ですが、あまり汚れのひどいものは、再生資源として品質保持できないので、燃えるゴミに入れていただくこととなります。今おっしゃられたように、プラマークがついているとわかりやすいのですが、商品の大きさによって、また、あめの包み紙のような分散するものには表示がついていないものがあります。市民にお配りしている分別冊子というものがありまして、そういったところで分かりやすく解説しています。また、問い合わせがあったときに容器包装リサイクル法の主旨をご説明するようにしていますが、全部はできていない状況です。分別というのは、あまり細かくすると子どもや高齢者の方にわかりにくいので、頃合いが非常に難しいところです。そういった意味で、市が出している分別冊子である程度の基本的なところを理解頂いた上で、それぞれの方に個別に対応していくのが適切だと考えています。また、ゴミの出前講座や市内全域にいらっしゃる廃棄物減量等推進員の方々を通じた情報提供に努めています。分別冊子もわかりにくい点もあるとのご意見をいただいているので、そういったご意見を参考にしながら次年度に向けて、よりわかりやすいものを作成する準備を整えているところです。

○委員

資料 3 の 5 ページ、計画の基本的課題という箇所について、うまくまとめておられると思いますが、この中で特に強調したいのは、5 つ目の○、「地域コミュニティと行政が協働した発生抑制、再利用の浸透」と書かれています。どちらにしても、食品ごみと紙ごみの減量をどうするかというのが、家庭系では一番の問題だと思います。これは廃棄物減量等推進員を中心とした自主的な地域コミュニティの減量をどうするかというところに持って行かなければなりません。それから 8 つ目の○、「マンションにおける資源化回収の取組みと排出ルール浸透」の箇所。豊中市もマンション住民人口がだんだん増えています。マンションには管理組合があります。この管理組合をうまく使うことによって、これらの課題が解決できるのではないかと思います。最後の「災害廃棄物処理計画の早期作成」の箇所。地域防災委員会がどんどん力をつけてきています。ここの連携をもっと強くしていくことが必要ではないかと思います。

○事務局

ありがとうございます。今のご指摘で、基本的課題が共有できたのかと考えておりますので、次年度具体的にごみ減量計画で議論させていただき、反映させたいと思います。

○会長

1点お願いしたいことがあります。資料の2つ目のフードバンク・フードドライブの部分で、食べ物の寄付をすることでごみが減るということは、寄付を受ける人の気持ちを考えると、表現を変えた方が良いと思います。

○委員

資料1の中で、計画値レベルと書かれていますが、下の減量目標は具体的な数値が上がっていますが、計画値レベルについて具体的に記述された方が良いと思います。

○事務局

さきほどのご意見を引き継ぐところですが、この審議会では、クリーンランドの焼却量が目いっぱいであるという議論から、計画値レベルという表現を使わせていただいています。これがわかりにくいので、人口が増えてごみの量が増えた、そしてクリーンランドの焼却量を減らさなければならない状態になっているというところがわかりにくくなったと思っています。グラフを示しては、というご意見も頂戴しました。突然計画値レベルという言葉が出てきますので、この表現を使うのであれば、もっとわかりやすく説明するとか、ここでご審議いただいた内容を、もう少し市民の方々に分かりやすく表現することをもう一度考えさせていただきます。特に、花嶋先生のご意見にありましたように、ごみ焼却量を減らしましょうという視点に立って、目標の位置付けも含めて強調したような形に考えたいと思います。

○委員

計画値を上回るごみが搬入されたと書いてあるので、計画値の具体的な数値を聞いているだけです。計画値があって減量目標値もあると思うのですが、計画値はいくらですか。

○事務局

供用開始時平成28年度を基準にしています。その時の計画値が約10万tです。今実績が10万4千tで、10tを上回って搬入されている状況ですので、10万tまで下げていくと書かせていただいています。

○委員

計画値につなげていくと、抽象的でなく具体的な流れで伝わるとと思います。

○委員

11万tくらい入れられるのではないかと。

○会長

災害廃棄物のことを考えなければなりません。平常時何t、災害時何tという形で試算されていると思いますが、災害廃棄物分を侵食してしまっているという話です。先程「11万tくらい搬入できるのではないか」というご意見がありましたが、私が以前勤めていたときに、無理した量を入れて、生燃えでそのまま出てくるものを沢山見ましたので、市民から言われてもダメだとはねつけて頂きたいと思います。

○委員

資料2のわれわれが考えなければならないところは、ごみのポイ捨てと不法投棄と2つのことでしょうか。

○事務局

他にもありますが、主にはそういうところと考えていただいて結構です。

○副会長

次の本格的な計画のときにというお話しでしたが、地域コミュニティでマンションが増えているというお話しを伺い、地域防災委員会、上位計画の環境基本計画の中でも、地域単位で環境を見ていくと言う話が出てきます。廃棄物のところでは、どれくらい地域単位でモニタリングできるようになっているのか教えていただきたい。あと、山田委員の話を伺って、高齢化していくとライフスタイルがより一層多様化し、助け合いが求められると感じました。これを一言協働という言葉でまとめられていますが、協働のありようは様々なのかなと思います。もっとみなさまの言葉にして盛り込めれば、その方が望ましいと思います。この場ですぐには無理かも知れませんが、場合によっては市民の方々からご意見を募るという形にするなど、ご一考いただければと思います。

○事務局

具体的な分析はしていませんので、今後、ごみ減量計画を考えるときに、今のご意見を反映しつつということになると思います。行政としては、例えばこちらで把握しているものとしては、集団回収の団体であるとか、ごみステーションとか、カラスネットとか、自治会レベルでなくとも小さな集団とか、データ自身は持っております。そういうものが活用できるか、また、今後の減量計画で新しい取組みに反映できるかも含めて検討していきたいと考えています。

○会長

本日の審議の中でコミュニティという意見が多かったので、来年度に活かして下さい。それでは、次の案件について、来年度のことも含めて資料の説明をしていただけますか。

5. 「平成29年度の廃棄物減量等推進審議会の進め方について(案)」

○事務局

(資料4に沿って説明)

○会長

来年度のスケジュールについて、基本計画の答申案、基本計画（案）に係るパブリックコメントを経て、最終的な計画を策定するというご説明でした。資料4、下の表は、行政がこういう計画策定するにあたってお手伝いいただく事業者の選考スケジュールについてです。

6. 「その他」

○事務局

事務局より確認もれがあった部分を再度確認させていただきたいと思います。さきほど上位計画である環境基本計画、総合計画の議論がなされているという話がありましたが、事務局の方でも資料内容がわかりにくいという議論が出ておまして、クリーンランドの焼却量をなんとかしましょう。それに続いて家庭系ごみ1人1日当たりとし事業系ごみ、資源化率を合わせて見ていきましょうということ審議会でお決めいただいたと思います。4つ並列であると、市民にとってわかりにくいというご意見をいただいております。現在進んでいる環境基本計画、総合計画も市民にわかりやすくするために、どの分野も一つ重点的なものという形にされているようです。審議会においては、家庭系ごみ1人1日当たり、事業系ごみ、資源化率と並びましたが、先程からも議論ありました焼却処理量が一丁目一番地ということで、これを重点的なものとする方向で上位計画と整合していくことをご確認したいと思っています。

○会長

目標値の設定はそれで良いと考えます。計画値の数字が見通しとはずいぶん違っていたということです。

○委員

そうなる、豊中市で、もし災害が発生し処理能力を超えているのであれば、対応できないのではないのでしょうか。

○事務局

今はそういうことなので、日常のごみを減らして処理量の余裕分を広げていくということです。

○委員

災害は、なかなか起きないかもしれないと思うが、表現としてももう少し危機感があるものでもよいのではないか。

○委員

災害が豊中市で起きたときに、豊中市伊丹市のクリーンランドで処理できればいいのですが。というよりむしろ、よそで災害が起きたときに豊中市が引き受けられる能力を持っていれば、今度豊中で何かあったときによそにお願いできるということです。ある程度引き受けられる容量を確保する必要があると思います。

○委員

実際災害が起こった時は、処理能力として12万tくらいあると思います。

○会長

処理量を無理に増やすと、危機への影響が高くなるので、考えない方が良い。

○事務局

(イベント等の案内)

○事務局

先ほどお伝えしましたスケジュール通り、第5回審議会は5月開催を予定しておりますので、日程調整し、お知らせさせていただきます。本日は施設見学を予定しておりますので、ご希望いただいた方はこのままお残り下さい。

○会長

今年度分の審議会は、これで終了となります。ありがとうございました。みなさまから具体的なご意見をいただくことが大事であると思っています。